

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 和)

事業所番号	670700939		
法人名	十和建設株式会社		
事業所名	認知症高齢者グループ「和心」ふじ荘		
所在地	山形県鶴岡市伊勢原町25番2号		
自己評価作成日	令和 3年 10月 6日	開設年月日	平成 18年 1月 17日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様それぞれが、その人らしい生活が送れるように心掛けています。また、施設の催し物や地域行事があれが参加して地域交流を図っています。毎日を楽しく、安全、安心に過ごしていただけるように、体力維持にも積極的に取り組んでおります。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	協同組合オール・イン・ワン		
所在地	山形市桜町四丁目3番10号		
訪問調査日	令和 3年 10月 28日	評価結果決定日	令和 3年 11月 18日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念を実践し共有するための事業所の目標を作り、職員一人ひとりがどのようにその目標に取り組むかを定め、半年ごとに振り返り評価をすることで、理念の実践に向け取り組んでいる。また、職員の自己評価と管理者の指導により、サービスの質の向上につなげている。コロナ禍の間、地域の催し物もなくボランティアの協力もなくなっているが、施設内での日々のゲームや行事など楽しみを多く行い、感染対策を実施し、湯野浜や月山へのドライブなど利用者の「笑顔」につながるよう努力している。毎月事業所の実状に応じた実践的な災害訓練が行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット内や研究室に理念を掲載し、職員会議で理解を深め、必要性の再認識に努めている。	「いつも笑顔を大切にあなたの話をたくさん聞きます。一日一日をあなたらしく暮らせるよう努めます。」という理念を実践し共有するための事業所の目標を作り、職員一人ひとりがどのようにその目標に取り組むかを定め、半年ごとに振り返り評価をすることで、理念の実践に向け取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	事業所として地域行事に賛同し、入居者様が参加できるようにしている。また、施設行事(地域交流会)の時は地域の方々に参加を呼びかけ、ボランティア協力もお願いしていたがコロナの為、実施できていない状況です。	感染症対策もあり、例年のような交流は出来ていないが、理念の「誰もが立ち寄れる施設」を目指している。高齢者福祉の地域資源としての役割を担い、地域の事業所と協働し地域交流会やオレンジカフェの取り組みを今後も推進していく意向である。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ以前は、地域交流会やオレンジカフェを通し、認知症の人の理解や支援方法を地域支援センターと共に様子を伝えていたが、実施できていない状況です。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回開催される会で、入居者様の様子を報告し、委員の方々より意見や助言をいただき、サービスの向上に繋がるように努めている。コロナの影響により報告のみとなっている。	町会長、婦人部、民生委員、市職員、包括職員で、2か月に1回文書または対面での会議により開催している。会議には事業所の実状や研修、避難訓練、身体拘束廃止委員会等の取り組みが報告されている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に1～2回介護相談員が来荘され、入居者様と関わられている。ケアサービス内容や実情を運営推進会議で市長村職員に報告し、情報を交換していたが、コロナの影響により実施できない状況です。	運営推進会議等で事業所の状況や取組が報告されている。例年は介護相談員の訪問もある。制度や利用者に関わる個別の問題等は、窓口と協議し問題解決に向け協働し取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
6	(5)	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる</p>	<p>外部研修をもとに、職員は入居者様の行動に合わせて支援できるようにカンファレスで話し合い、対応に努めている。外出したい方には、付き添い、見守り対応している。</p>	<p>3か月ごと身体拘束廃止委員会が開催され、身体拘束について職員に周知している。普段のケアを振り返りながら、「スピーチロック」についての職員の自己評価や「職員が身体拘束と感ずる場合と対応」というテーマについて話し合い、不適切な対応が行われないよう確認している。</p>		
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>外部研修をもとに、施設内研修を行い、虐待に対する意識を高め、防止に努めている。</p>			
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している</p>	<p>以前、成年後見制度を利用されていた入居者様がいたり、外部研修に参加し、必要性のある時に活用できるように、学ぶ機会を持っている。</p>			
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>契約時には、十分な説明を行い、家族の不安や疑問点を確認し、説明し納得して頂いている。</p>			
10	(6)	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>苦情相談窓口がある事を家族に周知しており、いつでも相談出来る様になってる。困ってる事や問題がないか声掛けしている。</p>	<p>一昨年の目標達成計画は、感染症対策もあり十分に出来ていない。例年の通りお便りや電話連絡、ドア越しの面会等感染症に配慮しながら、家族等とのコミュニケーションを大切に、信頼関係を築き意見等表しやすい関係を作っている。</p>		
11		<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>全体会議又ユニット会議で職員の意見を聞きそれを反映出来るようにしている。</p>			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得を勧め、個々の状況を把握し反映できるよう環境整備に努めている。			
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	コロナの為、リモートによる研修参加の機会を設け働きながらトレーニング出来るように努めている。	理念に沿った事業所の目標について、職員が一人ひとり目標を作り、半年ごと評価を行い管理者等が指導することでサービスの質の向上を図っている。2か月ごと事業所内で、職員を講師とする実情に応じた研修が企画され、学ぶ機会が作られている。外部研修も職責等を考慮しリモートによる研修等学ぶ機会を大切にしている。		
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	コロナ以前は県グループホームの研修や交換実習などに参加し、情報交換の機会を設けサービスの向上に努めていたが現状では交流を図ることが難しく実施できていない。	グループホーム連絡協議会や地域の他グループホーム事業所との連携など同業者との関係を大切にしている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	今まで生活していた環境や様子の記録をふまえ、要望等に耳を傾け言葉掛けや対応に注意し関係作りに努めている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居する前の段階から家族と話し合いを持ち要望、希望を聞くようにしている。面会や通院時にも話し合いの機会を設けている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	御本人、御家族、ケアマネで話し合い入居者様が必要とする支援を心掛けている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や料理などは職員だけで行わず、入居者と一緒に行っている。			
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今は感染防止の面もあり、通院等は家族にお願いしていますが、極力外出は控えるように協力頂いている。			
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ前は前に住んで居た地域に出かけたり、知り合い家族、親戚等の顔なじみの人が会いに来てくれたりしていた。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間での関わりが薄くならないようにレクリエーションや体操等の時などは間に入り支援に努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後の利用者の御家族にお会いした時は、近況をお尋ねしたりし、写真を送ったりして関係を大切にしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	今までの暮らしの様子を、毎日の会話や関わりの中から本人の希望や思いを組み取り、出来る限り意向に沿えるようにカンファレンスを行い支援に繋げている。	「あなたの話をたくさん聞く」ことを大切にし、普段の関りの中で、利用者に関わる時間を多くし、会話やその表情から利用者の思いをくみ取り、職員間で話し合い、利用者本位の思いや意向の把握に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族、施設などからの情報を多く得、本人の生活環境の把握に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	その人に合わせた活動、調理、洗濯物たたみ等などをお願いしている。できる事をして頂くことで意欲を持って一日を過ごせるように努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月ユニットごとにケース会議を行い現状把握し課題、問題点の解決に努め計画の見直しを行っている。コロナのため、話し合いは実施できていない。	3か月ごとモニタリングを行い、サービスの実施状況の把握と計画の評価が行われている。カンファレンスを行い職員と話し合いながら計画の見直しが行われている。利用者のやりたいこと、出来ること、楽しみごとが実現できるよう、利用者の現状に応じた計画の作成に努力している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々一人一人の様子観察をして変化や気づきなどを個人ケース、介護日誌、ノートに記録し、職員全員で情報共有している。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍の間、地域の催しものもなくボランティアの協力もなくなっているが、その施設内での楽しみを多く行う様に配慮している。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	受診時は毎日のバイタルの記録をもとに、体調の様子を情報提供書に記入して、医師からの指示を家族と職員間で共有している。	利用者及び家族の希望を大切に、かかりつけ医との連携を作っている。通院は原則家族をお願いしているが状況に応じて事業所でも支援している。通院の際は事業所での心身の状況を記した情報提供書を交付し、医療機関との情報の共有に役立っている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護事業所と連携して入居者様の健康管理が出来るような体制作りを進めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>かかりつけの医院、協力医療機関とは綿密に相談し情報交換出来る関係作りを作っている。又入院した際は病院関係者と連絡を密にしている。</p>			
32	(12)	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時に施設の方針を説明し理解していただいている。重症化した場合も本人家族と話し合い、今後の支援方針を共有している。</p>	<p>早い段階から事業所の出来ること出来ないことの説明が行われ、理解を頂いている。状況の変化に応じて、医療機関等を交えながら繰り返し話し合いが行われ、重度化や終末期に向け方針が共有されている。</p>		
33		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急マニュアルで初期対応を把握している。地域の消防署の協力を得て、訓練も定期的に行っている。</p>			
34	(13)	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>万全とは言えないが、月1回の自主訓練を実施している。コロナ以前は年2回消防署に参加をお願いしていた合同訓練は実施できていない状況です。</p>	<p>感染症の流行もあり消防署の参加は出来ていないが、毎月災害に対する訓練が行われ、実状に応じた実践的な訓練が行われている。マニュアルの見直しや備蓄等の確認も実施されている。</p>		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	<p>○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保</p> <p>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>一人一人の思いを尊重して入居者様に対しての言葉づかい、声掛け等も注意して行っている。又、職員会議等でも話し合う機会を設けている。</p>	<p>「自己決定の支援」を大切に、かかわり方等を会議で話し合い、一人ひとりの人格の尊重を大切にしている。普段のケアの中で言葉かけや対応について、職員同士注意し合い不適切なものがないよう努力している。</p>		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いを知る為に日常生活や過去の情報から関わりを持ち方を探りその引き出しに努めて行く様にしている。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な1日の流れはあるが、個々の生活ペースを大切に、その時々気持ちを尊重した支援をしている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	理・美容では本人の希望を大切にヘアスタイルでは、ショートやロングの方が居る。洋服は自分で選択されて、おしゃれを楽しめる様に支援している。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の食事形態に対応し、一人ひとりがおいしく食べられる様に工夫している。また、季節感のある食事を提供したり、片付けを一緒にするなど、交流の機会を作っている。	季節感を大切にしなが三食事業所内で調理し、利用者にもその過程に加わっていただき、家庭的な食事を提供している。誕生会では希望を聞き、四季の行事食で食事にアクセントをつけ、食事が楽しみなものになるよう工夫している。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	医師からの指示により、食事量の足りてない方には栄養剤を飲用して頂いている。一人ひとりの状態に応じた食事量、水分量の確保に努めている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に声掛けし、個々に合わせて口腔内の清潔保持と、菌の蔓延防止に努めている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用し、トイレの使用頻度や排泄パターンを把握して排泄の声掛けをし、自立に向けた支援を行っている。	排泄表を活用しなるべくトイレで排泄できるよう、職員間で共有し声掛け、誘導を行い支援している。利用者の状況に応じて、計画に排泄支援を位置づけ、評価しながら自立に向け支援している。		
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄表で排便状況を把握し、医師と連携をとって排便コントロールを行っている。また、水分摂取を心がけ、毎日運動の時間を設けて便秘の予防に努めている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	見守りを大切にし、本人できる事を尊重するケアによりADLの低下防止に努め、できない部分を補助している。様々なお話を聴かせて頂ける、安全で安心で楽しい入浴を提供している。	見守りを重視し、利用者の出来ることの継続を大切にして支援している。入浴を好まない方にも、職員を交代させたり、言葉かけ等を工夫し、清潔が確保できるよう支援している。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	人の居るダイニングのソファであったり、静かな自分の居室であったり、その時々状況に応じた、安心感のある空間を創る支援をしている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員同士で情報共有し、服薬ミスがないように日々努めている。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の好きな事、得意な事を日々の関わりの中で見つけ、個々に応じたレクリエーションや軽作業を提供している。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ以前は外出の希望がある時には、日程調整を行い、外出の機会を設けていたが、現在は実施できていない状況です。	感染症の流行もあり、外出の機会は少なくなっている。しかし、感染症対策に配慮しながら、海や月山へのドライブ等が実施されている。敷地内でのお茶会や、近隣への花見等気分転換の外気浴なども実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご本人より申し出があれば対応し購入している。外出などが可能な入居者様には一緒に買い物に出かけ支援していたが、外出に関してはコロナの影響により実施できていない。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者様より希望がある時は、電話したり、手紙を書いていたっている。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	快適に過ごしていただけるように、室内の温度調整を行っている。また、ダイニング、廊下に装飾を施し季節感を感じていただけるようにしている。	毎日の清掃や換気、温度・湿度管理の他、音や採光にも気を配り、過ごしやすい空間になるように気を付けている。ダイニングや廊下には行事の写真や利用者の作品などが飾られ、季節感を感じられるように工夫している。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う方々、入居者様同士のトラブルに配慮してダイニングの席順を考えている。会話が弾んだり個々にゆっくりできるように工夫し環境作りに努めている。		
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者様が使用されたてきた思い出の品を居室内に飾ったり、配置している。また、都度、本人、家族の希望を聞き居心地良く過ごせるように工夫している。	利用者の馴染みの物を置いたり、思い出の品や写真などを飾ったり、またできる方には掃除を職員と一緒にやってもらいながら、居心地よく過ごせるように工夫している。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	夜間の安全を考慮したベットの位置高さになっている。転倒の危険がある方はセンサーを設置し、予防に努めている。		